

2020年11月13日

原子力空母レーガンの明日米海軍横須賀基地帰港についてのコメント

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

共同代表 弁護士 呉 東 正 彦

本日付外務省から横須賀市への連絡によれば、明日11月14日朝に、原子力空母レーガンが、米海軍帰港するとのことです。

原子力空母レーガンは、8月22日に、グアムに寄港した直後の8月27日に、複数のコロナウィルスの感染者が出て、在日米軍基地に移送されました。

今年の3月から4月にかけて、原子力空母ルーズベルトでクラスターが発生して、1248名がコロナウィルスに感染しましたが、それを繰り返してはなりません。

折から第3波の感染拡大が懸念されている今、私達は市民と乗組員の安全を守るため、米海軍、日本政府及び横須賀市に対して、緊急に以下に対する回答を強く求め、それが実施できないならば、明日の帰港に強く反対します。

1、航海中に外国であるグアムに寄港し、複数の感染者が出たのだから、米軍関係者が、米軍基地内空港、港湾から入国する場合と同様に、

- ① 上陸後14日間の移動制限措置を実施すべきである。
- ② 乗組員全員に帰港前艦内で、又は上陸後14日間の移動制限期間に PCR検査による全員陰性を確認させるべきである。

2、航海中の感染者発生について下記の情報を明らかにして公表すべきである。

- ① 複数の感染者とあるが、感染者は現在までで、述べて何人なのか。
- ② それらの搬送先は、どこの基地か。横須賀の米海軍病院ではないのか。
- ③ 現在艦内に感染者はいないのか。PCR検査により全員陰性が確認されているか。